＜資料２＞

HCV 母子感染防止に予定帝王切開が否定的文献

Prospective study of mother-to-infant transmission of hepatitis C virus
H Tajiri,et al (Pediatr Infect Dis J,2001;20;10-14)

＜要約＞16800 人の妊婦 HCV 抗体スクリーニングで 154 人が陽性であった。141 人の母親が登録し、147 人出生したがドロップアウトし、114 例の児が検討できた。分娩様式では、経膣分娩 8.9%(8/90 例)VS 帝切 4.2%(1/24 例)であったが有意な差はなかった。高ウイルス群では有意に高率に母子感染した。

A significant sex - but not elective cesarean section-effect on mother-to-child transmission of hepatitis C virus infection. European Paediatric Hepatitis C Virus Network (JID 2005:192;1872-1879)

＜対象＞33 施設（イタリア、スペイン、ドイツ、アイルランド、UK、ノルウエー、スウェーデン）1787 組の母子が登録されたが児の HCV 感染チェックできた 1479 例で検討。但し、母親のヴィレミアの有無、ウイルス量については全例には測定できなかった。また、208 例が HIV にも感染しており、抗レトロウイルス剤の投与、ほぼ全例が予定帝王切開された。

＜成績＞HCV 母子感染率は、予定帝王切開 7.3%(35/480 例)と経膣・緊急定帝王切開 5.4%(50/924 例)には有意差なく、HIV 感染 8.7%(18/208 例)と非感染 5.5%(65/1183 例)は有意差を認めた。また、HIV 感染合併では、多剤抗レトロウイルス投与は治療なしあるいは単剤投与より HCV 母子感染率は有意に減少した。（28%29/103VS44%36/81）母体のウイルス量が調査できた症例での検討では、ヴィレミア母体は 6.2%(25/403 例)で非ヴィレミア母体の 3.3%(5/153 例)より有意に高率であった。

＜考案＞本研究で予定帝王切開の HCV 母子感染率に差を認めなかったのは母子感染率が高い HIV 感染の分娩方法に予定帝王切開が選択されたためであろう。HIV 感染でも抗レトロウイルス多剤使用群では、HIV の母子感染同様に HCV 母子感染に帝切による防止効果は認めなかった。本研究でも有意差はないが予定帝切による HCV 母子感染予防効果は 60%（6%→2.5%）あると考えられた。

＊本研究のまとめとして EPHN はレベル B で「予定帝王切開は HCV 母子感染防止のために推奨すべきではない」としている。

Lucy Pembrey, Marie-Louise Newell, Pier-Angelo Tovo, the EPHN Collaborators. The management of HCV infected pregnant women and their children European paediatric HCV network (Jounal of Hepatology 2005,43;515-525)